

令和4年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	5	学校名	静岡聴覚特別支援学校	記載者	副校長 池田昌史
------	---	-----	------------	-----	----------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	生命の尊さや人とのつながりを大切に、一人一人の良さを受入れ、互いを尊重する思いやりの心の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼロの日トークをきっかけとし、人権意識が高まり、不祥事根絶に向けて自分の行動を振り返ることができた教職員（AB90%以上） ・静聴版心得（人権チェックリスト）による自己評価（AB90%以上） ・学級経営案や個別の教育支援計画、個別の指導計画を基に、道徳の年間指導計画を定期的に見直しながら指導した教員（小中 AB85%以上） 	A	A	
ア	命のつながりを実感する食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・給食や旬の食材について関心をもち、感想を書いたり話したりすることができた幼児児童生徒（AB90%以上） 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と一緒に農園（家庭菜園）等を運営して、食べ物を生み出すことを実感させてはどうか。
イ	自分の命を守る防犯及び防災等安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導と通学状況確認（年間5回） ・多様な生活場面に対応した防犯学習と防犯訓練（年間2回） ・実際の状況に即した防災学習と避難訓練（年間5回） ・ふじのくにジュニア防災士初級講座受講（小2～5年 100%） ・安全を考え主体的に行動できた幼児児童生徒及び教職員（AB90%以上） 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅、学校、通学路等の危険や防災についてのマップを作製してはどうか。 ・計画的に繰り返し行われていることは素晴らしいと思います。
イ	感染症を正しく理解し、感染症を防ぐ対策の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症を理解し、適切に予防できた幼児児童生徒（AB90%以上） ・感染症予防について幼児児童生徒に指導することができた教員（AB90%以上） 	A	A	

様式第5号

ウ	ICT活用による効果的な学びの充実と検証	<ul style="list-style-type: none"> ・PCやタブレットによって、授業がより分かりやすくなったと回答する児童生徒 (AB80%以上) ・PCやタブレットを活用した授業を展開し、効果を得た教員 (小中 AB85%以上) 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後に期待するところですが、これらの機器が教育のすべてを改善するものではないと感じています。教育の原点は児童生徒が、試行錯誤をとおして生きる力を培うことだと考えます。 ・試行錯誤を繰り返しながら、よりよい学習の進め方を確立させることを望みます。
エ	子供が対話的、協働的に学ぶ授業実践	<ul style="list-style-type: none"> ・授業が楽しいと回答した児童生徒 (AB90%以上) ・子供の学びを見取り目標に対して適切な評価ができた教員 (AB90%以上) ・スキルちゃんを意識して指導した教員 (AB100%) 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業が楽しい。子どもの学びを見取り…。ともにしっかりできているとの評価は素晴らしいと思います。この点については、客観的な数値等を出しながら、今後も厳しく授業の改善に取り組んでほしいと希望します。 ・子どもに寄り添った授業が行われていると思いました。
エ	教員の指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・障害特性を考慮した指導案と板書計画に基づく一人一授業研の実施 (小中 AB100%) ・校内研修の協議や外部講師の助言から、授業改善を行った教員 (AB90%以上) 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教員として求められる基本的な力量であり、学校として、個人として研修に励む必要があるのは言うまでもありません。コロナ禍で困難であるとは思いますが、広く外部に目を向けて研修に励んでもらいたいものです。
エ	聴覚障害児教育の専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒の聞こえ及び補聴器・人工内耳の異常の有無に気付きマニュアルに従って対応ができる教員 (AB100%) 	A	A	
オ	キャリア教育の視点での幼小中学部の進路学習、進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートを使い、定期的にキャリア教育や進路学習を実施した教員 (小中 AB100%) ・進路だよりの発行 (年4回) ・学校は進路情報を提供し、将来を見据えた指導をしていると回答する保護者 (AB80%以上) 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は進路についてもっと情報を求めていると感じました。企業や他校、卒業生や外部組織との連携を取り、最新の情報を伝達することが望まれると思います。
オ	カリキュラム・マネジメントによるつながりのある教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメントを意識し、年間指導計画を見直しながら指導した教員 (AB85%以上) ・計画的な物品購入と効果的な使用ができた教職員 (AB100%) 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムをもとにどのような教育活動をしているのか、その結果として成果がどのように表れているのかについて、定期的に自己チェックすることが必要ですし、教師間で情報交換をすることも必要であると

様式第5号

					考えます。
オ	教育活動の見直し及び業務の精選と、働き方の	<ul style="list-style-type: none"> ・自身で働き方を考え、業務の遂行ができた教職員 (AB90%以上) 	A	A	
カ	専門性を生かした乳幼児教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して相談できたと回答する保護者 (AB100%) ・S Tと連携した指導 (年8回以上) と成果報告書の作成 ・乳幼児教育相談マネージャーの指導効果があったと回答する教員 (AB100%) 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児教室はこの教育のスタートであり、今後の学校とのかかわりをどのようにもっていくかのポイントとなるところです。高い専門性を有し、保護者に安心してもらえるよう頑張ってください。
キ	在籍校とのつながりを大事にした通級指導教室の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・在籍校訪問等による情報共有 (児童生徒一人2回以上) ・ニーズに応じた通級指導の実施と保護者及び在籍校担任の満足度 (AB90%以上) ・難聴児支援講習会の実施 (年2回以上) 	A	A	
ク	特別支援学校のセンター的機能の推進と充実及び関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・早期支援、早期療育の資料作成と発信 (学期1回以上) ・近隣の園や小中学校高等学校との情報共有と支援 (学期5回以上) ・学校内外の情報共有や、ケース会議につないだ案件の整理と成果の検証 (毎学期) 	A	A	